

7月26日(水)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ 日刊サマーミュージア

Hobo Nikkan Summer Muza



物語の世界を舞踏と音楽で 鮮やかに描き出した一夜



7/25 洗足学園音楽大学

©N.Ikegami

フェスタサマーミュージアの人気公演の一つである洗足学園音楽大学のバレエ公演。今年、ワーグナーにショパン、ベルリオーズにグノーといったロマン派の名曲に乗せて華麗な舞が披露された。

最初はワーグナーの「タンホイザー」序曲。東京シティ・バレエ団の小林洋彦による振り付けは、スローな動きを活かした優雅さが魅力的だが、音楽の進行と共に力強さにも溢れ、表現の幅広さでも魅せてくれた。続いては谷桃子が愛したショパンの楽曲をまとめ、自ら振り付けた「ロマンティック組曲」。バレエピアニストとして活躍中の福

島未紀のピアノ演奏に乗せて、ダンサーたちがエレガントな演技を披露していく。福島はピアノは踊りのためのテンポ感を重視した演奏でありつつも、ショパンの音楽ならではの歌心やハーモニーの変化を丁寧に届けてくれるものであり、ダンサーたちの細やかな演技と相まって、繊細な世界観を見事に展開していった。

後半の一曲目、ベルリオーズの劇的交響曲「ロミオとジュリエット」では、冒頭からアグレッシブな演技を見せ、躍動感あふれるステージを展開。一気に観客を魅了していった。舞踏の精度の高さ、表情の豊かさが調和

し、物語を鮮やかに描き出すことにも成功。とりわけ中心となっていた男女のダンサーの舞踏が印象的であった。最後はグノーのオペラ「ファウスト」からの楽曲である。牧阿佐美による振り付けで、演技の細やかさ、スケールの大きな舞踏によってファウストを誘惑する美女たちの優雅さと妖艶を見事に表現。物語の世界を鮮烈な印象と共に届けてくれた。(長井進之介・音楽ライター/ピアニスト)



©N.Ikegami



カーテンコールの様子

©N.Ikegami

ご来場者の声

素晴らしいバレエとオーケストラで4年前から毎年来ています。小学生の娘も毎年楽しみにしています。今年も素敵な公演をありがとうございました。(匿名) / 洗足学園音楽大学のバレエ・管弦楽公演は毎年行われているようですが、取り扱う作品、演出どれも素晴らしく、さらにミュージアの音響、見やすさで公演の価値が増していると思います。(50代・会社員・しゃりふあ) / 他のホールでは見ることのない角度からバレエを鑑賞できるのがフェスタサマーミュージアならではの。洗足のバレエは毎年楽しみにしている。(60代・会社員・のらきち) / 演奏の素晴らしさとバレエの美しさ、踊る躍動感、見事に融合して感動と安らぎをいただきました。来年のフェスタサマーミュージアでも今日の感動を再び経験したいです。素晴らしい企画心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。(80代・年金生活者・カツチ) / 学生の皆さんの演奏と演舞、素晴らしかったですね。特に3曲目のプロコフィエフではない「ロメオとジュリエット」は素敵でした。バレエのプロの道を目指す人もそうでない人も、希望に満ちた将来となりますように。(40代・会社員・R)

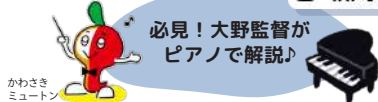
【明日の朝刊休みます】明日(7/27)は休演日のため、本紙の発行もお休みさせていただきます。次号発行は7/28です。

Next!
サマーミュージア
明後日のチケット情報

東京都交響楽団 サマーミュージア × ピアノ vol.3

耳から納涼♪北欧名曲選
7/28(金) 19:00 開演 (18:00開場)
会場：ミュージア川崎シンフォニーホール

- ニールセン：狂詩曲風序曲『フェロー 諸島への幻想旅行』
- グリーク：ピアノ協奏曲 イ短調
- シベリウス：交響曲第2番 二長調



必見! 大野監督が
ピアノで解説♪

Tel・Web予約 当日券カウンター
▶ 当日 17:00 まで ▶ 18:00 より

当日券あり



指揮：大野和士



ピアノ：久末航

[料金] S¥6,000 A¥5,000 B¥4,000
U25: 各席種半額



モーツァルト・マチネ創設者ユベール・スダーンによる
オール・ニ長調・プログラム

休日のひとときを音楽とともに過ごす「モーツァルト・マチネ」シリーズ。モーツァルト特有の耳になじむメロディ、休憩なしで1時間ほどの公演ということで、オーケストラ鑑賞のデビューとしてもおすすめめの公演です。“11時開演”とミュージザでは早い時間帯の公演で、クラシック音楽で一日をスタートできます。

今シーズンは「オール・モーツァルト・プログラム」。モーツァルトのみ、といっても楽器編成や作曲した時期によって違った趣が感じられますので、それぞれ聴き比べてみるのも楽しみのひとつです。

次回10月1日(日)は、東響音楽監督時代に「モーツァルト・マチネ」を創設した、ユベール・スダーンさんが5年ぶりに登場します。スダーンさんと東響は幾度も共演を重ね、信頼関係を築いてきました。今回は、モーツァルト作品の中でもよく耳にする

定番曲かつ、明るく輝きのある「ニ長調」の作品を集めたプログラム！長年モーツァルト管首席指揮者を務め、モーツァルトを得意なレパートリーとする名匠と端正な東響の演奏で、爽やかな秋の朝を満喫してはいかがでしょうか？(事業ゆ&ゆ)

◆ **モーツァルト・マチネ 第54回**

10月1日(日) 11:00 開演

《オール・モーツァルト・プログラム》
ディヴェルティメント 二長調 K.136(125a)
交響曲 第31番 二長調 K.297(300a)「バリ」
交響曲 第35番 二長調 K.385「ハフナー」

【料金】
全席指定 ¥4,000 U25 ¥1,500

公演アンケートに回答すると特製壁紙プレゼント！

公演アンケートに書いたあなたの感想が新聞に載るかも？さらに、ご回答の方全員にサマーミュージザ特製壁紙プレゼント！会場配布のアンケート用紙、または公式サイトからどうぞ。



スダーンさんからのメッセージ

親愛なる東響の音楽ファンの皆様

私が愛するオーケストラとのコンサートをスタートしてちょうど25年になります。私は今、久しぶりに家族のもとを訪れたような気持ちです。最初の瞬間から東響の音楽家たちの温かさを感じ、今でも彼らに会うたびに大きな幸せを感じています。最初はゲストとして、その後、首席客演指揮者、音楽監督、そして今は桂冠指揮者として。私たちの関係は、音楽とお互いに対する尊敬の念で成り立っています。

モーツァルトはどのオーケストラにとっても音楽的資産となるものですので、共に始めたモーツァルト・マチネが、今でも東響とミュージザの年間プログラムとして続いていることを、とても誇らしく思っています。東響はそういう文化を持ったオーケストラであり、他の多くの作曲家を演奏するための音楽的な柱でもあります。そして、このニ長調プログラムを、私の親愛なる“通”のお客様のために演奏することを楽しみにしています。これからも、末永く大好きなオーケストラと共にあらんことを。



パートナーショップのご紹介
エンジョイ! 川崎!!
Enjoy Kawasaki



奥久慈卵の親子丼 950円(税込)

絶品!奥久慈卵の親子丼ランチ

鳥元ミュージザ川崎店に行ってきました。

カウンター席に座ると、目の前で職人さんが焼き鳥を手際よく焼いていて雰囲気十分。

魅力的なランチメニューのラインナップに迷いながらも、看板メニューの「奥久慈卵の親子丼」864円(税込950円)を注文。“こだわり卵と秘伝の出汁で作る逸品”のうたい文句に、否が応でも期待が高まります。

店員さんが運んできた、実物を見て一気にテンションMAX! 大きなお椀にたっぷりの親子丼に、味噌汁、お漬物もついてあります。

いざ実食。ぷりぷりの鶏肉が出汁の効いたふわふわの卵に包まれていてなんとも美味! 具沢山のお味噌汁と、丁寧な味付けのお漬物にも文句なし。絶品の親子丼に大満足でございました。(事業課SG)



店内入り口。和風の作りが特徴。

鳥元 A ミューザ川崎

パートナーショップ特典

ドリンクサービス (飲み放題メニューより選択)

※お食事ご利用のお客様に限り ※優待券持参者及び同伴者

フェスタサマーミュージザ公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージザ
#お待ちどうサマー♪
で検索 & 投稿
お待ちしております!



Twitter: @summer_muza
Facebook: @kawasaki.sym.hall
Instagram: @muzakawasaki



ひとまずはアスクに手を掛けて、バレエレッスンから思い出してみることになります。(管理課・ヨ)

今や「観る専」ではありませんが、かくいう私も幼少期にはバレエを習っていました。中学一年生の夏ごろまで。部活が忙しいのだの何だの言い訳を並べた退会届を、ししぶフアックスした母のため息がよみがえります。惜しいことをしたなあ。今となってはそう思うものの、継続力の無さに定評のある私、結果を残す前にやめてしまったことが数多くあります。バレエも部活も、ピアノも嫌で背を向けたのですが……気づけばこうして音楽に携わる仕事をしています。あれ？もしかしたら、志半ばで投げ出したことも、ふとしたタイミングでひょっこり人生に顔を出してくるのかもしれない。いつかはバレエもまた身近なものになるのかしら。

日刊サマーミュージザ
Hobo Nikkan Summer Muza

昨日は魅惑のバレエ公演でした。バレエとオーケストラを同じ壇上で楽しめる、オーケストラピットを持たないミュージザの逆転発想です。

スタッフ日誌